

平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震
非常災害対策本部会議(第15回)議事録

日時:平成28年4月24日(日)9:35~10:01

場所:官邸4階大会議室

1. 内閣総理大臣 発言

(内閣総理大臣)

- 昨日、熊本の被災地の状況を、この目で見て、被災者の皆様の声を、直接耳にしてきた。被害の甚大さに加え、避難所暮らしが長引く中で多くの方が、精神的にも肉体的にも、厳しい状況に置かれている現実を改めて実感した。
- 発災以来、食料や水など必要な物資の輸送などに全力を挙げてきた。
- 在日米軍にも、オスプレイによる輸送など多くの支援を行って頂いた。今般、現場で活動する自衛隊の増強が大きく進んだため、米軍による支援は、本日をもって終結するが、米国が示してくれた友情に対し、日本国を代表して、心から感謝する。
- 昨日、博多から熊本までの九州新幹線が、運転を再開した。停電も解消するなど、生活インフラは少しずつ復旧に向けて進んでいる。しかし現地では、まだまだ不自由な暮らしを強いられている。昨日、避難所でノロウイルスの感染も確認された。衛生管理の強化、水道の一日も早い復旧に努めること。被災者の皆さんの、不安な気持ちを胸に刻み、被災者の生活支援を、一層加速してもらいたい。そして、被災者の生活再建、農林水産業や中小企業など産業の復興。これからも、やるべきことは山積している。
- まず、明日中に激甚災害の指定を閣議決定できるよう、手続を早急に進めていただきたい。さらに、被災者の皆さんの不安な気持ちに寄り添いながら、今後も、先手、先手で、一層機動的に対応していかなければならない。
- このため、平成28年度補正予算を編する。この補正予算では、住宅の確保や生活再建支援金の支給など、被災者支援に要する経費を計上するとともに、「熊本地震復旧等予備費」を創設し、今後、被災者の方々の事業再建、道路・施設等のインフラ復旧や、がれき処理等を迅速に進めていくための、十二分の備えを整えたい。
- 28年度当初予算に計上している予備費や、災害復旧のための予算と合わせて、本補正予算を活用することにより、当面の復旧対策に万全を期されたい
- 今国会での成立を期すべく、速やかに補正予算を提出できるよう、麻生財務大臣には、関係大臣と調整を開始していただきたい。先ほど、麻生財務大臣にその旨指示した。
- 熊本の皆さんを始め、被災された全ての皆さんが、震災前の笑顔を取り戻し、安心して暮らせる、そして、復興を成し遂げる「その日」まで、安倍内閣として「できることは全てやる」。その決意の下で、政府の総力を結集し、復旧・復興に取り組むこと。

2. 被害状況及び各省庁の対応状況について

(警察庁)

- 昨日は搜索活動を中断していたが本日再開。2名の連絡の取れない方の搜索を継続中。
- 今日の天気は曇り時々雨なので2次災害に警戒しつつ進めていきたい。

(総務省)

- 消防の活動規模は全体で8,161名。
- 緊急消防援助隊は徐々に元の本部に戻りつつあるが、消防団の人数が増えて7,217名。
- 他自治体からの職員派遣は本日時点で920名に増加。被害の大きい熊本市に408名、南阿蘇村に120名。
- 通信については現在全ての避難所で最低1社の携帯は通じる状況。無料Wi-Fiを626カ所に設置済。
- 甲佐町が臨時災害放送局(FM)を開設し、総務省九州総合通信局が計2,080台のラジオを配布。

(海上保安庁)

- 港で支援活動を行っている。昨日は給水量5t、入浴支援447名。

(防衛省)

- 昨日2万6千人態勢を構築した。航空機107機、艦艇15隻で対応。
- 民間船舶「はくおう」について、昨日八代市で174名が利用。
- 115箇所では物資輸送を実施。生活支援として給食46カ所、給水135カ所、入浴支援16カ所、医療支援9カ所を実施。
- オスプレイにはこれまで支援していただき感謝。
- 本日仮設トイレ120棟をグランメッセ熊本等の避難所に輸送する。

(厚生労働省)

- DMATからJMATに移行していく。
- DMAT以外の医療チームは123チームが活動中。
- 医師会からは歯ブラシを配布した。
- 保健師は59チームから62チームと増えている。
- 栄養士会が熊本県庁内で特殊栄養食品の配布ステーションを設置。アレルギー対応商品を配布している。
- 熊本市内のノロウイルスの陽性が7名となった。南阿蘇中学校の避難所の体育館で22名発生
- 厚労省からも医師2名を派遣して確認中。
- 避難所では、トイレの清掃強化、消毒薬等の配布、手洗いの周知ポスターの掲示を行っている。
- トイレの基準も、1時間おきに清掃することや、20人に1棟程度設置することを、県と市町村に通知し、トイレが足りなければ国に言うよう伝えてある。
- インフルエンザについて、備蓄しているタミフルを使用することについて製薬会社の了承を得た。
- アナフィラキシーショックの簡易の注射の補助治療剤を持ち出せなかった人のために、補助治療剤の再入手を周知している。
- 熱中症対策として、チラシを配布している。
- 医療保険、一部負担の支払いを不要とするよう要請。国保、介護保険、後期高齢者医療は免除。協会けん

ば、健保組合は猶予に了解している。

- 水道、熊本市の断水は 500 戸とあるが、1 割程度のエリアで水が出にくいなどの苦情が出ている。水道管が壊れていて、圧が上がらなくなっている模様。

(農林水産省)

- 昨日から 25 日までに被災者のニーズに応じて、保存性の高い食品を中心に 20 万食を提供。昨日はビスケット等約 9 万食を提供。
- 南阿蘇村でノロウイルスが検出されたことを受け、緊急に清涼飲料水を 1 千本発送。明日までにレトルト食品など 11 万食を発送。
- ヘリ調査の結果、林地の荒廃等の被害が明らかになってきている。
- 一日も早い経営再開を目指し、必要な措置を講じていく。

(経済産業省)

- 停電は解消。ガスは未だ約 8 万 2000 戸程度で供給停止中だが、4600 名体制で 5 月 8 日までの完全復旧を目指している。
- ガスの供給停止中の世帯には、カセットコンロ 2 万台を順次提供している。
- コンビニ、スーパー、食料品店も 90%以上再開している。

(国土交通大臣)

- 応急危険度判定は 600 人体制で行っており、11,300 戸の判定を既に実施している。
- 九州自動車道は今月中に全線を一般開放する見込み。
- 九州新幹線の脱線車両をすべて本日中に撤去できる見込み。
- 二次的避難場所としてホテル・旅館へ 35 名の受入れが決定している。

(環境大臣)

- 生活ごみ対策について、他の自治体による支援が本格化。
- し尿処理について、コンビニでの仮設トイレ等で処理が円滑に行われるよう、しっかりと対応していく。
- 東日本大震災で災害廃棄物処理を担当した本省課長を現地に派遣し指揮をとらせる。

(内閣府防災担当)

- 住宅の再建支援をしっかりと行っていく。
- 罹災証明書の発行事務については柔軟に対応していきたい。
- ボランティアは週末に増えてきた。ゴールデンウィークにまた増えると思うが、しっかりと活用していきたい。

(文部科学大臣)

- 熊本県で公立小中学校 322 校が休校していたが、今週から 34 校が再開する。うち 12 校は避難所となっており共存していく。
- 明日、応急危険度判定士 9 名、文化財調査官 3 名を派遣。

(防災担当大臣)

- みなさまいろいろと感謝申し上げます。復興支援もプッシュ型からプル型へと移行してきているので、業務の見直しをお願いしたい。
- 復興に関するツイッターアカウントを内閣府で新たに開設した。現地対策本部と内閣府防災担当で情報の共有をしっかりとやっていきたい。
- 住宅については国土交通省を中心にがんばってまいりたい。
- 各省庁前向きに対応頂いて感謝。これまでどおり各省庁の垣根を越えて切れ目なくやっていきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

以上